



県内経済 〈2月〉

概況

県内経済は、全体として持ち直しの動きが足踏みしている

電子部品、機械金属、木材の生産はいずれも前年を上回った。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を下回った。個人消費は全体として緩やかに回復している。雇用情勢は持ち直しの動きが足踏みしている。

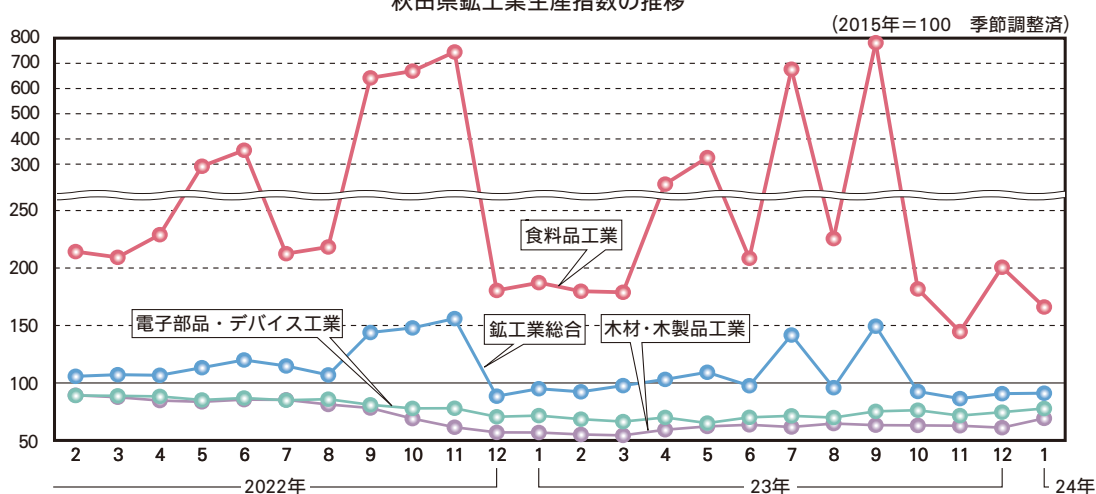
産業別の動向では、電子部品の生産額は、スマートフォン向け等の低迷を好調な車載向けが下支えし、2か月ぶりに前年を上回った。機械金属の生産額は、ウエイトの高い輸送機械で回復傾向が続き、2か月連続で前年を上回った。木材の生産量は、普通合板（1月）が3か月連続で前年を上回ったが、前々年比では低水準にある。製材品は13か月ぶりに前年を上回った。公共工事請負額は、2か月連続で前年を下回ったが、年度累計では前年を上回って推移している。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事で振るわず、4か月ぶりに前年を下回っ

た。住宅着工は、2か月ぶりに前年を下回った。個人消費は、新車乗用車販売台数が一部メーカーの出荷台数の減少などの影響により、2か月連続で前年を下回ったが、小売店販売額（1月）は8か月連続で前年を上回り、全体として緩やかに回復している。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.27倍となった。新規求人数は前年比5.3%減となり、12か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比14.2%増となり、2か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は6件、負債総額は6億2,200万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

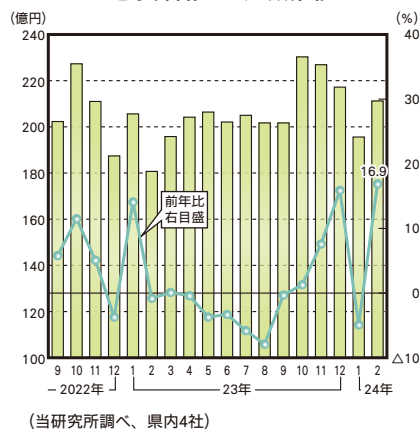
生産額、2か月ぶりに前年比増加

2月の生産額は2か月ぶりに前年実績を上回った。前年比は16.9%の大幅増となったものの、前年同月が半導体不足等により生産額が大きく減少した反動によるものである。

スマートフォン向けは減少に歯止めがかかっておらず、民生機器、産業機械とも低迷が続いており、好調な車載向けが下支えしている状況となっている。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは堅調に推移しており、減少傾向にあった半導体素子は増勢に転じている。長らく低迷していた産業向け液晶パネルも回復の兆しがみられる。

電子部品の生産額推移



機械金属

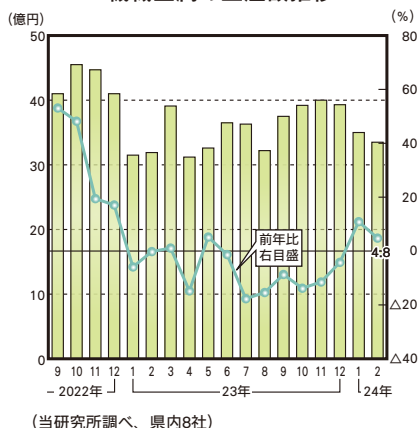
生産額、2か月連続前年比増加も金額は減少

2月の生産額は前年比4.8%増となり、2か月連続で前年実績を上回ったものの、金額的には前月より減少した。

ウエイトの高い輸送機械は、一部メーカーにおいて安全管理上の問題により複数の工場での作業を一時停止したため金額的に大きく減少したものの、通常ベースで見ると半導体不足が解消され回復傾向が続いている。その他民需関連では、低迷が続いていた産業機械は増勢に転じており、金型、建機部品も好調を維持している。

公共工事関連では、水道は堅調に推移しており、橋梁・鉄骨は一進一退の動きとなっている。

機械金属の生産額推移



木材業

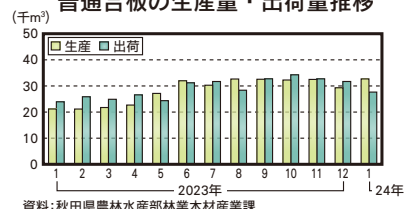
製材は大型工場稼働により生産・出荷増

全国的に、新設住宅着工需要が低迷する中、不需要期に入り、木材・木製品の生産・出荷量は総じて停滞感を強めるも、本県は大型製材工場稼働にともない供給増となっている。

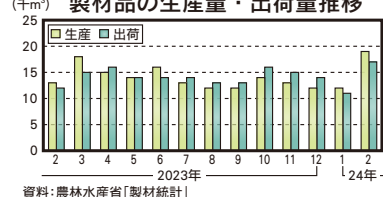
1月の普通合板は、地元大手の工場火災などで落ち込んだ前年の反動増から、生産量は前年比54.3%増と3か月連続で前年を上回り、出荷量も同15.5%増と5か月連続で増加した。ただし、前々年比ではともに依然8割未満の水準にとどまる。

2月の製材品は、県北の大型製材工場の稼働開始にともない、生産量が前年比46.2%増と13か月ぶりに前年を上回り、出荷量も同41.7%増と26か月ぶりに前年比増加した。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

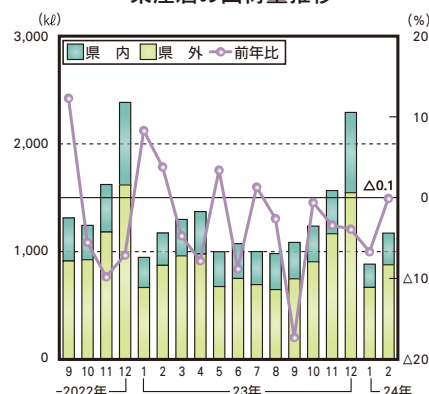


酒造業

出荷量、7か月連続で前年比減少

2月の清酒出荷量は、前年比0.1%減となった。物価上昇による節約志向の高まりなどから7か月連続で前年を下回ったものの、減少幅は前月に比べ縮小した。出荷先別では、県外向けが同0.5%増と前年を上回ったが、県内向けは同1.9%減と前年を下回った。県外の主な出荷先別では、東北5県は同5.7%減、北海道も同1.8%減となった一方で、東京は同2.2%増と前年を上回った。種類別では、特定名称酒は同5.7%増となったが、普通酒は同4.6%減となった。特定名称酒の内訳では、本醸造酒は同8.9%減となったが、吟醸酒は同8.9%増、純米酒は同5.5%増と前年を上回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 県や市町村が減少し前年を下回る

2月の公共工事請負金額は、国が増加したものの県や市町村等が減少し、前年比9.7%減と2か月連続で前年を下回った。4月からの年度累計実績は前年同期比3.3%増と依然前年を上回っているが、伸び率は前月より縮小した。

一方、当研究所調査による地元大手12社の2月の新規受注額は、前年比12.6%減の2,769百万円となり4か月ぶりに前年を下回った。民間工事は製造業の工場新築やサービスの宿泊施設新築等の大口受注があり同394.2%増と伸びたが、官公庁工事が同59.4%減と振るわなかった。4月からの年度累計実績は前年同期比5.9%減となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	2月	前年比	2023/4~24/2月	前年同期比
件数	115	36.9	2,270	2.2
請負金額	5,148	△9.7	142,327	3.3

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	2月	前年比	2023/4~24/2月	前年同期比
官公庁	1,153	△59.4	12,999	△17.3
民間	1,616	394.2	9,421	16.0
合計	2,769	△12.6	22,420	△5.9

(当研究所調べ、県内12社)

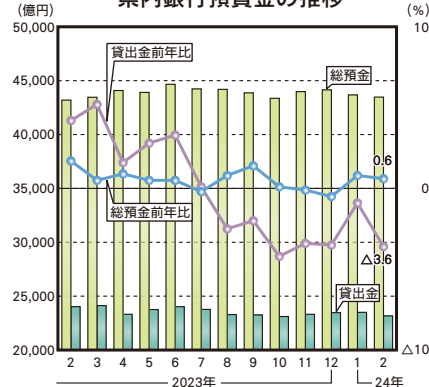
金融

貸出金の伸び率、7か月連続で前年割れ

2月末の県内銀行の預金は、前月末比200億円減少したものの、前年比では0.6%の増加となった。貸出金は、前月末比336億円減少し、前年比でも3.6%の減少となった。預金の伸び率は2か月連続で前年を上回った一方で、貸出金の伸び率は7か月連続で前年を下回った。

2月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は6件(前年比5件増)、負債総額は6億2,200万円(同296.2%増)となった。倒産件数は、前月比、前年同月比ともに増加した。負債総額は、負債額1億円以上の倒産が2件発生し、前年同月を大幅に上回った。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

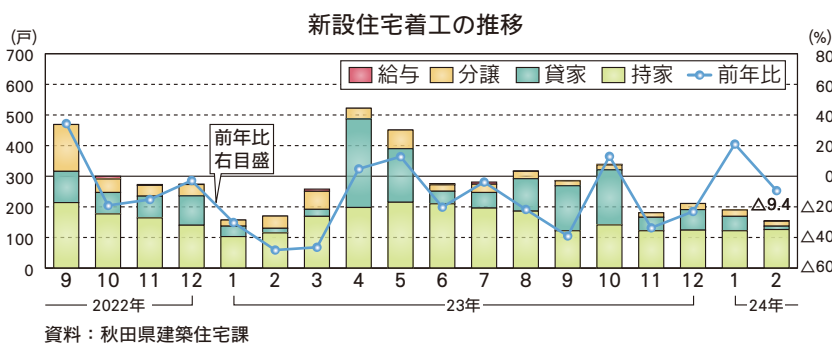
着工戸数、2か月ぶりに前年比減少

2月の県内新設住宅着工戸数は、154戸（前年比16戸減、9.4%減）であった。主力の持家は増加したものの、貸家、分譲住宅が前年を下回り、2か月ぶりに前年を下回った。

利用関係別では、持家が126戸（前年比11戸増）、貸家が11戸（同4戸減）、分譲住宅が16戸（同24戸減）、給与住宅が1戸（同1戸増）となった。

持家は2か月連続で前年を上回ったものの、資材価格高騰などの影響により依然低水準で推移している。分譲住宅は戸建の着工が大幅に減少し、2か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、県北は持家と貸家、県南は持家と分譲住宅の着工が増加し、前年を上回った。県央は持家、貸家、分譲住宅の着工が減少し、前年を下回った。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2024年2月	前年比	24年1~2月	前年比
県北	27	58.8	60	1.7
県央	93	△23.8	212	5.5
県南	34	9.7	72	7.5
合計	154	△9.4	344	5.2

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として緩やかに回復している

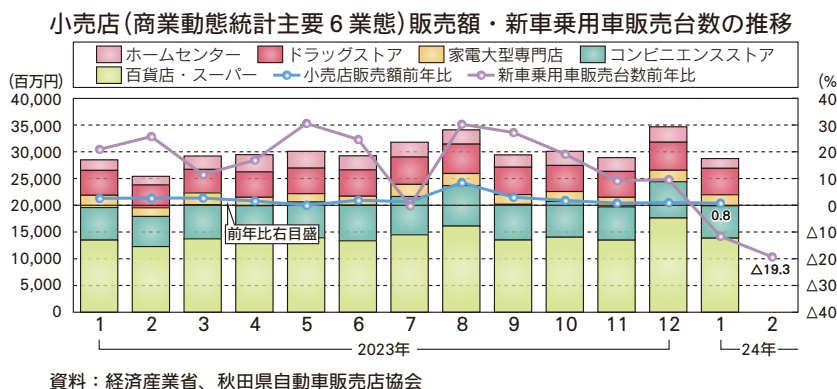
1月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比0.8%増となり、8か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、家電大型専門店（前年比10.1%減）、ホームセンター（同7.4%減）、コンビニエンスストア（同0.6%減）は前年を下回ったものの、ドラッグストア（同6.2%増）、百貨店・スーパー（同2.7%増）はいずれも前

年を上回った。

2月の新車乗用車販売台数は、一部メーカーの認証試験の不正による出荷台数の減少などが影響し、前年比19.3%減と2か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、登録車が同24.4%減と2か月連続で前年を下回ったほか、軽乗用車も同11.8%減と2か月連続で前年を下回った。



2月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,101	△19.3
登録車	1,162	△24.4
普通車	680	△20.9
小型車	427	△31.9
輸入車	55	7.8
軽乗用車	939	△11.8

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	2023年11月	12月	24年1月
①消費者物価指数	3.2	3.1	2.7
②勤労者名目賃金	2.3	7.2	3.7

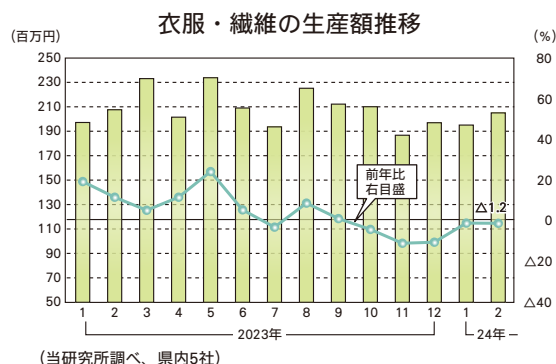
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、5か月連続で前年比減少

2月の生産額は、前年比1.2%減となった。前年の百貨店等の売上増加からの反動減などにより、5か月連続で前年を下回った。

受注は、春夏物が堅調に推移し、2か月連続で前年を上回った。一方、賃上げによる人件費上昇により収益面では厳しい状況が続いている。



雇用

持ち直しの動きが足踏み

2月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.01ポイント低下の1.27倍となった。常用の内訳では、一般は同0.07ポイント低下の1.35倍、パートは同0.05ポイント上昇の1.07倍となった。

新規求人数は前年比5.3%減となり、12か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同19.0%減となった。「木材・木製品」で増加したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」で原材料価格や燃料費高騰などの影響により大幅に求人が減少した。非製造業は同3.5%減となった。「宿泊、飲食サービス」、「医療、福祉」などで増加

したものの、「運輸、郵便」で前年に倉庫業から仕分け作業の求人が増加した反動減がみられたほか、「建設」でも公共工事の減少や暖冬で除雪作業の求人が減少した。

新規求職者数は前年比3.0%減となり、2か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比14.2%増となり、2か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県央で増加したものの、県北、県南で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.51倍、県央が1.27倍、県南が1.00倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

区分	2024年1月		2月		
	前年比	前年比	前年比	前年比	
新規求人計	8,182	△6.7	8,329	△5.3	
製造業	830	3.6	829	△19.0	
主要業種の内訳	食料品	124	△8.8	135	△23.3
	繊維	124	9.7	143	△8.3
	木材・木製品	56	64.7	58	20.8
	金属製品	68	19.3	80	△22.3
	電子部品・デバイス・電子回路	93	△20.5	101	△39.5
	電気機械器具	73	△5.2	12	△79.7
	非製造業	7,352	△7.7	7,500	△3.5
	建設	857	△3.1	1,076	△2.4
	運輸、郵便	354	0.0	224	△28.0
	卸売、小売	1,132	△9.2	1,114	△0.3
宿泊、飲食サービス	734	32.3	503	4.4	
生活関連サービス、娯楽	285	1.1	309	1.0	
教育、学習支援	146	9.8	212	8.2	
医療、福祉	1,843	5.4	1,516	2.7	
サービス	1,104	△6.0	937	1.8	
新規求職者数	4,435	△5.5	4,702	△3.0	
有効求職者数	15,181	2.6	16,985	0.8	

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	2023年11月 12月 24年1月 2月			
	前年比	前年比	前年比	前年比
有効求人倍率	1.43	1.45	1.42	1.35
常用	1.02	0.99	1.02	1.07
パートタイム	1.29	1.28	1.28	1.27
全数(季調値)	146	147	241	137
事業主都合離職者数	14.1	△10.4	79.9	14.2
前年比				

2月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,994	△6.0	1.51	△0.02
県央	3,720	8.6	1.27	0.01
県南	1,952	△18.2	1.00	△0.07
合計	7,666	△3.4	1.24	△0.03

(注) 臨時・季節を除く